

チャンドーギヤ・ウパニシャッド

CHNDOGYA UPANISAD

第四篇

第5章～第8章

2020年4月謹製
日本ヨーガ・ニケタン

チャーンドーギヤ・ウパニシャッド

第四篇

第5章

1節

その時一頭の雄牛が彼に向かって「サティヤカーマよ」と呼びかけた。彼は「何でしょうか?」と答えた。「愛しい者よ。我々は千頭に達した。我々を導師様の家に連れて行って下さい」

2節

「私はお前に絶対者ブラフマンの四分の一を語ろう」と雄牛が言った。「尊敬すべきものは、私に語って下さい」とサティヤカーマが言った。雄牛は彼に言った。「東は四分の一である。西は四分の一である。南は四分の一であり、北は四分の一である。まことに愛しき者よ。これが輝くものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一である」

3節

「この真理を知る者で、輝くものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足を瞑想する者は、この世において輝く者になる。すると、この真理を知る者で、輝くものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足をその如くに瞑想する者は、輝く世界を獲得する」

第6章

1節

(雄牛が言った)「火元素がお前に絶対者ブラフマンの他の四分の一を語るであろう」それから翌日、サティヤカーマは牛たちを追い立てた。夕方に彼らが到着していたその場所で、火を灯し、牛たちを囲いの中に追い込み、薪を火の上に乗せ、東を向いて火の西側に座った。

2節

火元素は彼に言った。「サティヤカーマよ」「何でしょうか?」と彼は言った。

3節

「愛しい者よ。私はお前に絶対者ブラフマンの四分の一を語ろう」「お願いします」彼に向かって火は言った。「大地は四分の一である。大気は四分の一である。天は四分の一である。大洋は四分の一である。まことに愛しき者よ。これが無限なるものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一である」

4 節

「この真理を知る者で、無限なるものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足を瞑想する者は、この世において無限なる者になる。すると、この真理を知る者で、無限なるものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足をその如くに瞑想する者は、無限なる世界を獲得する」

第 7 章

1 節

(雄牛が言った)「白鳥がお前に絶対者ブラフマンの他の四分の一を語るであろう」それから翌日、サティヤカーマは牛たちを追い立てた。夕方の彼らが到着していたその場所で、火を灯し、牛たちを囲いの中に追い込み、薪を火の上に乗せ、東を向いて火の西側に座った。

2 節

白鳥が降りてきて彼に言った。「サティヤカーマよ」「何でしょうか？」と彼は言った。

3 節

「愛しい者よ。私はお前に絶対者ブラフマンの四分の一を語ろう」「お願いします」彼に向かって白鳥は言った。「火は四分の一である。太陽は四分の一である。月は四分の一である。雷光は四分の一である。まことに愛しき者よ。これが光を有するものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一である」

4 節

「この真理を知る者で、光を有するものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足を瞑想する者は、この世において光を有する者になる。すると、この真理を知る者で、光を有するものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足をその如くに瞑想する者は、光を有する世界を獲得する」

第 8 章

1 節

(雄牛が言った)「一羽の水鳥がお前に絶対者ブラフマンの他の四分の一を語るであろう」それから翌日、サティヤカーマは牛たちを追い立てた。夕方の彼らが到着していたその場所で、火を灯し、牛たちを囲いの中に追い込み、薪を火の上に乗せ、東を向いて火の西側に座った。

2 節

一羽の水鳥が舞い降りて彼に言った。「サティヤカーマよ」「何でしょうか？」と彼は言った。

3 節

「愛しい者よ。私はお前に絶対者ブラフマンの四分の一を語ろう」「お願いします」彼に向かって水鳥は言った。「息は四分の一である。視覚は四分の一である。聴覚は四分の一である。意思は四分の一である。まことに愛しき者よ。これが支えを有するものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一である」

4 節

「この真理を知る者で、支えを有するものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足を瞑想する者は、この世において支えを有する者になる。すると、この真理を知る者で、支えを有するものと呼ばれる絶対者ブラフマンの四つの四分の一足をその如くに瞑想する者は、支えを有する世界を獲得する」